

課題名 知床からの情報発信 ～イベント集客区域の広域化への検討～

機関名 北海道森林管理局

所属 知床森林センター

氏名 緑化第二係長 島田智美

緑化第一係 中嶋佑輔

1. 課題を取り上げた背景

平成17年に知床が世界自然遺産に登録されてから本年度で5年目を迎え、全国各地で5周年を記念したイベントが開催されるとともに、新聞やテレビ等マスコミでも取り上げられ、あらためて知床への関心が高まっています。知床森林センターにおいても平成21年度に斜里町本町から世界遺産区域の入口にあたるウトロへ事務所を移転し、また、知床ボランティア活動施設の開設をきっかけに、道内外からの来館者が増加し、イベント活動の対象や広報等のPRをより広域化することが必要と考え、取組みを強化してきました。

今回、これまでの取組みの結果から、知床における全国へ向けた情報発信と、集客区域の広域化を推進していく上での課題と対策について検討したので報告します。

2. 取組みの経過

これまでの情報発信の方法は、広報紙の発行、ホームページでの情報発信、新聞、ポスター・チラシによる周知等が主となっています。イベントの集客区域の状況は、地元斜里町をはじめ北見、網走等の近郊都市からの参加が多く、道外からの参加はほとんどみられない状況でした。

知床ボランティア活動施設への来館者数は少しずつ増加傾向にあります。しかしながら、ボランティア活動施設に隣接する国設知床野営場に来る全国からの利用者（年間約4,000人）への聞き取りから、まだまだ全国的な知名度が低く、十分なPRができていないことがわかりました。

この様な状況から、全国へ向けての情報発信の方法として、①ボランティア活動施設来訪者への情報発信及びサービス、②各地で開催されるイベントへの出展・参加しての広報活動、③関連団体等との連携・タイアップ及びインターネットホームページ等を使用しての情報発信の3つ

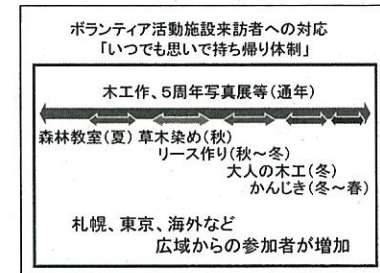
を軸として、イベント集客区域の広域化に向けた取組みを検討し実施しました。

3. 実行結果

①の取組みとして、いつ施設に来ても何かができる体制づくり＝「いつでも思いで持ち帰り体制」が必要と考え、夏休みは森林教室、その他の期間はロングランイベントの草木染め、リース作り等、年間を通して継続的に知床の魅力を体験できるイベントを実施しました。また、リピーターの獲得を目的に、キッズサポーター制度を作り実施しました。

②の取組みでは、遺産登録5周年を記念し各地で開催される行事等、注目度の高いイベントへ参加し、広報活動を実施しました。

③の取組みとして、マスコミ媒体の利用、インターネット発信の活用等を積極的に行い、普段意識して知床や森林にふれることがない方々の目や耳にも「知床森林センターからの情報」が伝わるよう取組みを実施しました。



4. 考察

これまでの取組みから、広域的な広報活動の効果が現れ、少しずつですが全国からのイベント応募者が増加傾向にあります。相乗効果として30代以下の若い世代の参加や、ボランティア活動施設の地元利用者数にも増加が見られました。そのような中で、地元の方々からは、「子どもが木にふれあえる木育器具の充実」や「親しみやすい施設の愛称」などの希望も聞かれます。

利用者の居住地域、年齢層、利用形態等により要望も多様ですが、今後も、広く多くの方々の声に耳を傾け、様々な意見を取り入れながら、国民に開かれた知床森林センターとして、知床の森林に関する情報を発信していきたいと考えています。